

日本小児循環器学会専門医制度の発足

住友 直方

日本大学医学部小児科学系小児科学分野

New Foundation of the Board of Japanese Pediatric Cardiology and Cardiac Surgery

Naokata Sumitomo

Department of Pediatrics and Child Health, Nihon University School of Medicine, Tokyo, Japan

はじめに

本邦では、医師は、標榜科目を自由に選択することができる。しかし、実際には各医師の経験から専門性を持った科目を標榜するべきであり、またその標榜を担保するための制度が専門医制度である。社団法人日本専門医制評価・認定機構は学会相互間の協力と連携・交流を図り、社会に信頼される専門医制度の確立、専門医の育成、認定およびその生涯教育などを行うことを通じて、医療の質の向上をめざすために設立された。

専門医とは

日本専門医制評価・認定機構は、加盟している各学会と協調し、5年間以上の専門研修を受け、資格審査ならびに専門医試験に合格して、学会等によって認定された医師を専門医と定義している。

専門医にはいくつかの段階がある。機構には、18の基本領域の学会が所属しており、この中の1つの領域の専門医を名乗ることができる。これが、基本領域の専門医である。ほとんどの医師はこの基本領域の学会に所属しており、まずこの専門医を取得することが次の段階の専門医を取得する条件となる。

基本領域の専門医を取得後にサブスペシャリティの専門医を取得することが可能となる。機構には26のサブスペシャリティ領域の学会、7つの多領域に横断的に関連する学会が所属しており、これらに関しては、2つ以上の専門医を取得することが可能である。いわゆる、2階建ての専門医である。

これとは別に、機構に所属していない多くの学会が存在し、各学会で独自に専門医制度が認定されている。

このように、現在専門医はこの3種類が存在し、厚生労働省や、医師法では専門医を規制しておらず、したがって、保険診療に対する規制はなく、診療報酬に対しての差もない。

米国の専門医制度

米国では専門医制度は「Board」と呼ばれ、American Board of Medical Specialties (ABMS) に加盟する24団体による認定試験により認定される。各科のBoardを取得するには、卒後臨床教育認定評議会 (Accreditation Council for Graduate Medical Education: ACGME) に認定されたプログラムでの研修を修了しなければ受験資格が与えられない。小児科のBoardは、American Board of Pediatrics (ABP) が運営し、各施設がBoardを取得するのにふさわしいレジデンシー・プログラム (研修課程) を有しているかどうかを認定する。これらの機関は独立法人で非営利団体であり、認定に関して特定の団体の干渉を受けない。その科の医師を標榜するには、3年間のレジデンシー・プログラムを終了後に、Boardの取得が必要である。

Boardを取得した医師は、Pediatric Cardiologyなどのサブスペシャリティの専門医を取得することができる。Boardの取得は収入に直結し、専門医の治療か否かで給料が異なる。また、医師免許と同様に、専門医も10年ごとに再認定試験を受験する必要がある。本邦と米国の専門医制度の違いをTable 1に示す。

小児循環器関連の専門医

日本小児科学会の分科会およびその関連学会で、現在専門医制度が施行されているのは、日本周産期・新生児医学会の認定する周産期 (新生児) 専門医、日本小児神経学会の認定する小児神経科専門医の2つのみである。外

Table 1

	日本	米国
認定機構	日本専門医制評価・認定機構各学会	ABMS
基本領域の学会	18	24
小児科専門医合格率	約 80%	76%
更新	5 年, 点数のみ	10 年で再試験
小児循環器専門医 受験者数 (2010)	299	226
合格率 (2010)	84.9%	79.2%
診療報酬	差なし	差あり

ABMS : American Board of Medical Specialities

科領域の専門医は、日本胸部外科学会・日本心臓血管外科学会・日本血管外科学会の認定する心臓血管外科専門医がある。循環器領域の専門医は、日本循環器学会の認定する循環器専門医がある。

小児循環器学会は日本専門医制評価・認定機構に認可されておらず、学会認定の専門医ということになる。しかし、中澤ら¹⁾の指摘のごとく、本専門医制度は、日本専門医制評価・認定機構の要件に沿った、十分な計画の基に設立されており、将来、日本専門医制評価・認定機構に認可される可能性も有している。

小児循環器専門医に求められるもの

今後、小児循環器専門医が独自の identity を持ち、どのような活動を行うのかは、学会としても考えていかなければならない。会員の教育、質の向上、社会への貢献など小児循環器専門医に求められる医師のあり方を検討し、前進していくことが必要である。

【参考文献】

- 1) 中澤 誠, 新垣義夫, 上村 茂, ほか: 日本小児循環器第一期専門医師試験の検証と展望, 日小循会誌 2011; 27: 134-140